

中央市場への1300億円「過剰投資」と批判

「東部」再整備案は白紙

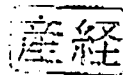
大阪市の市政改革本部は九日、取扱量の減少に悩む同市中央卸売市場(福原野田)と、東部市場(東住吉区今林)などの事業分析(中間報告)をまとめた。千三百億円をかけた再整備した東部市場を「過剰投資」と批判し、白紙案を投じ東部市場の耐震補強などを行う計画に対して「再整備案を作り直す必要」と提言。整備計画が白紙に戻されることになった。

提言では、市側の担当者に外部のコンサルタントを加えた東部市場再整備プロジェクトチームを設け、市民が利用できる施設の整備なども視野に入れて計画を練り直し、今年度中の基本プラン作成を目指す。

約千三百億円をかけて進めようとしたアンケで善いなどが行われながら、毎年二十億円前後の競争を考えて使用料を抑えるべきだ、「市の職員数が多い」「電気料金が上がる」など、不値上げの懸念が強い。一方で老朽化が進んだ市場に入りうる業者は、東部市場についても、百

腐田を投じて耐震改修などの再整備が進められる計画だった。外部の有識者による市の大規模事業

評価専門委員会も昨年八月、「おおむね妥当」とする答申を出していたが、市政改革本部が計画にストップをかけ、市場の事業分析を進めていた。



大阪市 東部市場改修見直し 財政難や有識者委「OK」白紙

有識者委員会から「耐震補強のため必要な事業」として発表された。財政難に加え、小売店と露地の直接取引が増えて市場の取扱量が減っているなど、耐用対効果を再検討するべきだと判断した。

市は2010年度までに東部市場を改修、垂て替えることを計画した。昨春、北大教授ら7人でつくる委員会に諮り、「耐震性を満たしていないらえ、改修で食の安

全の確保が図れる」などと指摘をもち出した。ところが、市政改革本部(本部長・関澤一市長)は、東部市場の取扱高が00年の1188億9千円から04年は1200億円に減少していることに加え、中央市場が1800億円をかけた改修を終えたばかりで、事業費回収に苦しんでいることもあり、東部市場は計画を見直す方針だ。



整備計画を見直しと発表された。一億円程度の競争にことまわっている事業の収益力を考え、過剰な新規投資と判断。06年度中にも事業規模を縮小した計画案を作成した。昨年八月に専門評価委員会ですらされた再整備計画によると、耐震補強などを中心に施設の老朽化を改善し、全天候型駐車施設の建設などが盛り込まれている。07年度に百上、10年度の完成を目指した。

市場の経営改善策として、合庫などの施設の有効活用▽光熱費の減額▽民間委託や地方独立行政法人化など経営形態の見直しをあげた。

報告書などによると、本場、東部市場の取扱高の合計は、生鮮食品の消費減も市場外流通の

